

豊明市行政評価制度「施策」評価票

施策評価番号

41

1 施策の概要

1-1 施策の名称	生涯スポーツ・スポーツ振興			基本施策コード	4-2-1
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	評価票作成者 スポーツ担当係長 伊藤孝士
1-3 総合計画における施策の体系	①節	教育文化「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			
	②項	生涯スポーツ・スポーツ文化			
1-4 施策の目的	スポーツ施設の充実、スポーツ団体の充実を図り、スポーツに楽しむ環境を整え、親しむ機会を増やすことによりスポーツに関心を持つ市民を多くします。				

	平成22年度評価 (前期の成果)	平成27年度評価 (全期間の成果)
担当課評価	B	
総合評価	B	

● 施策評価の判定基準

- A : 施策の目的を効果的に達成しているため継続する
- B : 施策推進の実施手法等に改善の必要がある

1-5 総合計画における基本成果指標	基本成果指標名	前期（平成18年度～平成22年度）			全期間（平成23年度～平成27年度）			指標の定義
		目標値（単位）	実績値（単位）	達成率（%）	目標値（単位）	実績値（単位）	達成率（%）	
①	スポーツ施設の数や設備に対する満足度	59.0 (%)	58.4 (%)	99.0 (%)	61.0 (%)			市民からみたスポーツ施設に対する満足度を表す指標
②	市主催のスポーツ教室等の数に対する満足度	70.0 (%)	67.1 (%)	96.0 (%)	72.0 (%)			市民からみたスポーツ教室等の数に対する満足度を表す指標
③								

2 施策の担当課による評価結果

評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	既存事業の構成や優先順位の考え方、新規事業の必要性の考え方	施策の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	生活スタイルが多様化する中で、健康志向が叫ばれ、生涯スポーツを楽しむ環境づくりやスポーツに親しむ機会を	スポーツ団体を充実させ、魅力あるスポーツイベントを開催し、スポーツに関心を持たせる。総合型スポーツクラブの拡充が課題であ	環境をテーマにとよあけマラソン開催し先導車に電気自動車を使用したことにより大変盛り上がった。
平成19年度	”	”	市制35周年記念第20回とよあけマラソンに松野明美選手を招待し大会を盛り上げた。
平成20年度	”	”	とよあけマラソンは一定の役割を果たしたことにより休止とする。
平成21年度	”	”	とよあけ健康ジョキングクラブ（NPO豊明連絡協議会）がチョコッとマラソンを開催（H22.2.14）し、後援（豊明市教育委員会）を行い備品等の貸出しをした。
平成22年度	健康志向が高まる中、スポーツに親しむ市民の増加により、学校施設の開放回数を増やしたことにより、市民のニーズにこたえているが、既設のスポーツクラブを発展させ、子供から大人まで幅広く市民が参加できる総合型地域スポーツクラブの設立を検討し、市民の各層に安定的にスポーツの場の提供を図りたい。 【評価がBの理由】体育施設改修事業等については、体育館及び勅使グラウンド等が完成してから30年以上経過しており、根本的に改修するには多額の費用を必要とするが、厳しい財政状況のため部分的な改修によって対処せざるを得ない状況である。また、近隣他市町と比較しても更なる設備の充実が望まれる。 【改善方向の指示】事業の必要性・緊急性を精査し、予算の範囲内で優先順位を決めて施設整備を実施すること。		
平成23年度	高齢化が進む中、健康志向の高まりに伴い、高齢者のスポーツに親しむ市民が増加しているが、若い世代のスポーツへの関心や参加を促す必要がある。そこで既設のスポーツクラブをさらに発展させ、子供から大人、高齢者まで幅広く市民が参加できる総合型地域スポーツクラブへの移行を検討し、市民の各層に安定的にスポーツの場の提供を図りたい。また、施設・設備の充実も図る必要がある。 【評価がBの理由】体育施設改修事業等については、体育館及び勅使グラウンド等が完成してから30年以上経過しており、著しく老朽化が進んでいる。根本的に改修するには多額の費用を必要とするが、厳しい財政状況のため部分的な改修によって対処せざるを得ない状況である。また、近隣他市町と比較しても更なる設備の充実が望まれる。 【改善方向の指示】事業の必要性・緊急性を精査し、予算の範囲内で優先順位を決めて施設整備を実施すること。		
平成24年度	今年度、スポーツ推進計画を策定した際、市民アンケート調査の結果、健康志向が高まりスポーツに親しむ市民が増加していることがわかるが、若い世代についてはスポーツへの関心はあるがスポーツをすることは困難であるとの回答が多くみられる。今後、若い世代が参加できる機会と環境づくりが必要である。また、現在のスポーツクラブを発展させ、子供から高齢者まで幅広く市民が参加できる総合型地域スポーツクラブへの移行を進める。また、老朽化が進む施設・設備の改修も図る必要がある。		
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

